競　技　注　意　事　項

1. 本大会は2024年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により行う。

靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長及び競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならず、明らかに規則・規定違反のシューズや疑わしいシューズは、チェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合ある。

※競技用靴・靴底厚さについては別表を参照

1. 年齢の起算は、2024年4月2日現在とする。出場できる種別は、当該年齢又は当該年齢の下の種別に限る。
2. 更衣について

更衣室の利用は、更衣のみとし、更衣室に荷物を置いたままにしないこと。また、清潔にすること。

４．練習について

1. トラック内での練習は、競技開始時間の30分前（9時00分）までとする。(使用するコースについては、競技役員およびアナウンス等の指示に従うこと)
2. バックスタンド後方（東側）の練習走路は、終日使用できる。
3. 投てき種目の練習は危険をともなうので、各種目とも競技開始前に競技役員の指示により投てき場内で行う。
4. 各自、他の競技者と交錯しないようにするなど、十分に事故やケガの防止に努めること。

５．招集について

1. 招集場所は室内練習場とする。
2. 招集開始時刻及び招集完了時刻は競技開始時刻を基準とし、下記の時間帯に招集を完了できなかった場合は出場できない。

【トラック種目】　競技開始時刻の３０分前開始　２０分前終了

【フィールド種目】競技開始時刻の４０分前開始　３０分前終了

1. 競技者は、招集開始時刻に確認を受け、その後、アスリートビブスおよびスパイクのチェックを受け、各自で腰ナンバーカードを受け取る。
2. 招集完了時刻に競技役員の指示により移動する。
3. 代理点呼は認めない。

※多種目を同時に兼ねて出場する競技者は「多種目同時出場届」を提出すること。用紙は招集場所で配布する。

1. リレー競技に出場するチームは、招集完了時刻の１時間前までにリレーオーダー用紙を招集所に提出すること。　※「リレーオーダー用紙」は招集所で配布する。

６．競技について

1. 競技者は、スタートリストに記載されたアスリートビブスで出場すること。変更はできない。
2. トラック競技の出場者は、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に、はがれないように付けること。なお、**はがれやすい素材のハーフタイツの場合は安全ピンで、はがれないように付けること。**
3. Ａ5000ｍ、Ｂ5000m、Ｃ5000ｍ、10000ｍは別ビブスを使用する。別ビブスは、招集所で受け取ること。
4. スパイクのピンは、本数は11本以内とし、９㎜以内の全天候舗装用を使用すること。(走高跳・やり投は12㎜以内とする）
5. トラック種目は、すべてタイムレースとする。
6. 走高跳のバーの上げ方については、当日、跳躍審判長が決定する。
7. 三段跳の踏切板位置については、砂場から11mとする。
8. 競技エリア内に通信機器(携帯電話等)やビデオ撮影機器(タブレット等)を持ち込んではならない。
9. Ａ10,000mは48分00秒、Ａ5,000m、Ｂ5,000m、Ｃ5,000mは23分00秒、Ｈ5,000m、Ｉ5,000mは26分00秒を経過後は、次の周回に入ることができない。
10. フィールドの芝生内は、全面立ち入り禁止とする。
11. 走幅跳・三段跳および投てき競技に於けるオープン参加者の試技数は3回とする。

７．表彰について

・各種別・種目の優勝者に、賞状・賞品を授与する。

８．クラブ対抗について

　①男女別の対抗とする。

　②男女別総合優勝クラブには、それぞれ賞状・優勝杯（持ち回り）、２位・３位には賞状を授与する。

　　　・対抗得点は、各種目の６位まで得点を与え、６位までに同一クラブ２名以上ある場合は、上位２名の獲得得点とする。（下表参考のこと）

　　　・得点の配点は、１位７点、２位５点、・・・・６位１点とする。

　　　　（参考）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 順位 | クラブ名 | 得点 | 得点算入Ａクラブ　11点Ｂクラブ　５点Ｃクラブ　３点となる |
| １ | Ａ　クラブ | ７ | ７点 |
| ２ | Ｂ　クラブ | ５ | ５点 |
| ３ | Ａ　クラブ | ４ | ４点 |
| ４ | Ｃ　クラブ | ３ | ３点 |
| ５ | 大阪陸協（個人） | ２ | 対抗の対象外 |
| ６ | Ａ　クラブ | １ | ３人目により対象外 |

③優勝杯返還式はおこなわない。ただし、団体表彰式については、競技終了後に実施する。

９．免責事項について

1. 競技中に生じた事故について、応急処置の他一切の責任は負わない。
2. 競技会に関わる全ての人の感染に対して、いかなる責任も負わない。

10．その他

* + 1. 正面玄関ホール附近および室内練習場での場所取りをしなしこと。横断幕、のぼりの設置はバックスタンドとする。
		2. **ごみは競技者がすべて持ち帰ること。**
		3. プログラム記載もれや訂正は大会本部まで申し出ること。
		4. 記録およびクラブ対抗結果は、電光掲示板およびWEBページ(大阪陸協ホームページ)で確認すること。
		5. 盗難が多発しているため貴重品は各自で保管するなど持ち物の管理には注意すること。
		6. アスリートビブスがない場合、番号布（横24cm以内×縦16cm以内）を販売（200円）するので、各自で作成すること。

【別表】

競技用靴・靴底厚さ表

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 種　　　目 | 靴底最大の厚さ | 要　件　・　備　考 |
| フィールド競技（除：三段跳） | 20mm | 投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。 |
| 三段跳 | 25mm | 靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。 |
| トラック種目(ハードル種目を含み、800m未満の種目) | 20mm | リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 |
| トラック種目(障害物競走を含み、800m以上の種目) | 25mm | リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。（競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは40mm） |

　※フィールド競技用靴における「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。」の規定については、提要除外とするが、その他の規定は（靴底最大の厚さ）は、遵守すること。